

⑫ 公開実用新案公報(U)

昭63-158420

⑬ Int.Cl.⁴

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 昭和63年(1988)10月18日

B 60 K 11/04

J-8108-3D

B 60 R 19/52

2105-3D

F 01 P 11/10

6849-3G

審査請求 未請求 (全2頁)

⑮ 考案の名称 車両用ラジエータグリル

⑯ 実 願 昭62-51531

⑰ 出 願 昭62(1987)4月7日

⑱ 考 案 者 田 中 登 東京都日野市日野台3丁目1番地1 日野自動車工業株式会社内

⑲ 出 願 人 日野自動車工業株式会社 東京都日野市日野台3丁目1番地1

⑳ 代 理 人 弁理士 竹本 松司 外2名

㉑ 実用新案登録請求の範囲

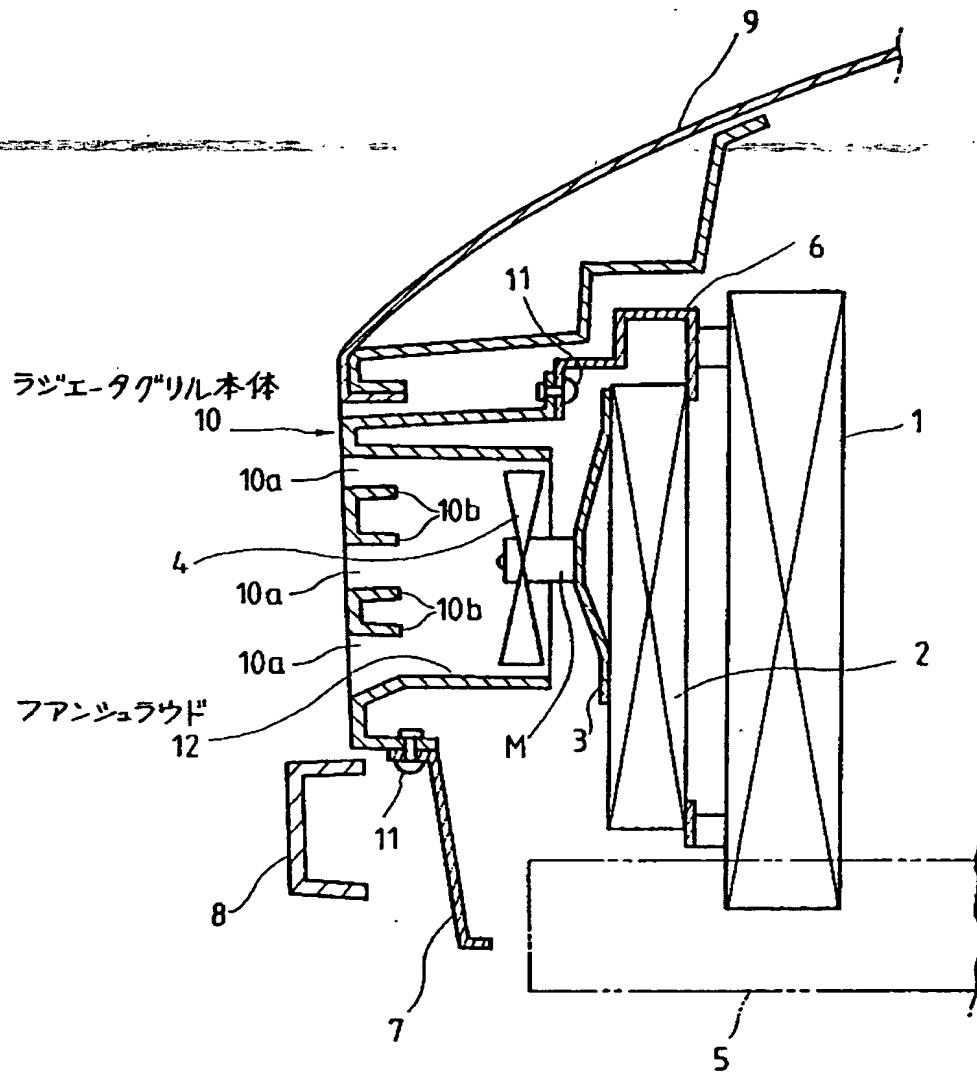
ラジエータグリル本体にファンシュラウドを一体に形成したことを特徴とする車両用ラジエータグリル。

図面の簡単な説明

図は本考案の実施例の組付部分断面図である。

1……ラジエータ、2……コンデンサ、3……

ブラケット、4……ファン、5……シヤシフレーム、6……ラジエータサポートパネル、7……パランスパネル、8……パンパ、9……フード、10……ラジエータグリル本体、10a……貫通孔、10b……突出縁、11……リテーナ、12……ファンシュラウド、M……モータ。



公開実用 昭和63- 158420

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U) 昭63-158420

⑬ Int.Cl.⁴

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 昭和63年(1988)10月18日

B 60 K 11/04

J-8108-3D

B 60 R 19/52

2105-3D

F 01 P 11/10

6849-3G

審査請求 未請求 (全頁)

⑮ 考案の名称 車両用ラジエータグリル

⑯ 実 願 昭62-51531

⑰ 出 願 昭62(1987)4月7日

⑱ 考 案 者 田 中 登 東京都日野市日野台3丁目1番地1 日野自動車工業株式会社内

⑲ 出 願 人 日野自動車工業株式会社 東京都日野市日野台3丁目1番地1

⑳ 代 理 人 弁理士 竹本 松司 外2名



明 細 書

1. 考案の名称

— 車両用ラジエータグリル —

2. 実用新案登録請求の範囲

ラジエータグリル本体にファンシュラウドを一体に形成したことを特徴とする車両用ラジエータグリル。

3. 考案の詳細な説明

産業上の利用分野

本考案は、自動車等の車両のラジエータグリルに関する。

従来技術

従来、車両用ラジエータグリルは、実開昭61-106430号公報に示されているように、ラジエータグリルと冷房装置のコンデンサの冷却ファンの外周を覆うファンシュラウドとが別体に構成されていた。

考案が解決すべき問題点

このため、ラジエータグリルとファンシュラウドとを別々に取付けなければならず、取付作業に

— 1 —

242.

手間を要すると共に、互いの位置関係に誤差を生じるおそれがあり、また、設置スペースが大きくなり、費用も高価となっていた。

本考案は、ラジエータグリルとファンシュラウドの取付けが同時にできると共に互いの位置関係が確保され、設置スペースを小さくしてスペースの有効利用を図り、費用を低廉にすることができる車両用ラジエータグリルを提供することを目的とするものである。


問題点を解決するための手段

本考案の車両用ラジエータグリルは、ラジエータグリル本体にファンシュラウドを一体に形成したことを特徴とする構成を有する。

実施例

図において、車両のシャシフレーム5の上方のラジエータサポートパネル6の進行方向後方にラジエータ1が取付けられ、ラジエータサポートパネル6の進行方向前方に冷房装置のコンデンサ2が固定されている。

コンデンサ2の進行方向前方にはファン4を有



するモータMがブラケット3によって取付けられ、ファン4の進行方向前方にラジエータグリル本体10の複数の突出取付脚がラジエータサポートパネル6及びバランスパネル7にそれぞれリテーナ11, 11によって着脱自在に装着されている。

ラジエータグリル本体10は複数の貫通孔10aと貫通孔10aの周縁に進行方向後方に突出する突出縁10bを有し、さらにファン4の外周を覆うファンシュラウド12を進行方向後方に向けて一体に形成している。

ラジエータグリル本体10の上方にはフード9が、下方にはバンパ8がそれぞれ設けられている。

なお、この実施例はコンデンサの冷却ファンのファンシュラウドに適用したものを示したが、本考案はラジエータの前方に押込み型の冷却ファンを備えたもののファンシュラウドにも適用できるものである。

考案の効果

本考案によると、ラジエータグリル本体にファンシュラウドを一体に成形したため、ラジエータ

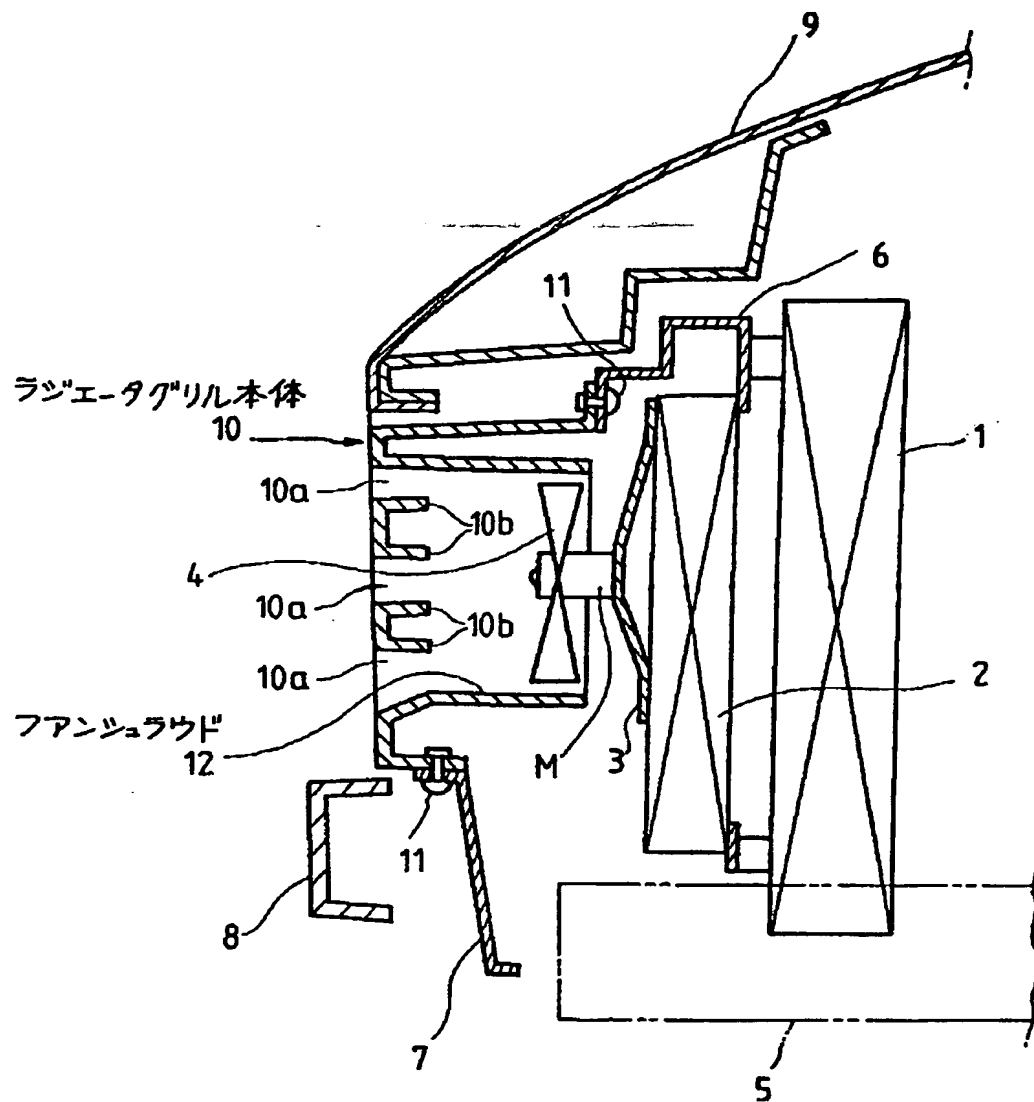


グリル本体を車両のラジエータサポートパネルに取付けるだけで、ラジエータグリルとファンシュラウドとが同時に取付けられ、それらの間の位置関係は常に不動であって組付け精度が保たれ、ラジエータグリルとファンシュラウドを別々に取付けるものに比較して設置スペースが小さく、スペースの有効利用を図ることができ、費用も低廉となる。

4. 図面の簡単な説明

図は本考案の実施例の組付部分断面図である。

1…ラジエータ、2…コンデンサ、3…ブラケット、4…ファン、5…シャシフレーム、6…ラジエータサポートパネル、7…バランスパネル、8…バンパ、9…フード、10…ラジエータグリル本体、10a…貫通孔、10b…突出縁、11…リテーナ、12…ファンシュラウド、M…モータ。



実用新案登録出願人

日野自動車工業株式会社

代理人 弁理士 竹本 松司

(ほか2名)

246



実開 63-158420